

1 パブリックコメント実施結果について

(1) 募集の概要

- ・ 募集期間：令和2年10月7日（水）～10月28日（水）
- ・ 募集方法：直接持参，郵送，ファクス，電子メール

(2) 提出されたコメント 6人：36件

3 内容

区分	コメント
病院がどうあるべきか	・ 原点に立ち返って、笠岡市民のための医療・福祉・介護について市民病院がどうあるべきかを考えることが必要である。そして、これだけは他の病院に譲れないもの（理念）＝オリジナリティを市民に周知してもらいたい。
	・ 市民病院は、「患者が安心，地域が安心，働く職員が安心」「安心して笠岡市民病院」を目指すべきである。
	・ 病院存続については必要と思うが，建替については現段階ではどちらとも言いがたい。納得のいく説明のもとに進めていただき，市民につけを回すことのないようにしっかり熟慮してもらいたい。
	・ 市民が安心してかかれる「総合病院」であることが必要である。そのうえで，どのような特色を持たせるのか検討していただきたい。
地域医療構想	・ 国の「構想」自体が「社会保障費の削減」を目的にしており，自治体病院の「削減・縮小」の意図は明確ななか，市民が望む公立病院として，市民の望む医療が提供できるのか疑問である。
建設場所	・ 現在の場所や笠岡駅付近は低地であり，東南海地震等が起こったときに市内に機能する病院がなくなることが考えられるため不適切と考える。そのため，新病院はこのダメージを受けにくい高台を目指すべきである。 案1：金崎の民間会社が山を削っている所 案2：三愛園の北側の土砂を崩している所 案3：園井の市営住宅付近の所 案4：笠岡IC付近の所
	・ 建設用地として「大井グラウンド」（旧療養所跡）が最良と思う。理由としては，元々市民病院の診療所があり，現在はグラウンドとして活用され建物等もほとんどない。また，交通の便も笠岡インターチェンジに近く，バスの定期便もあり，連携の多い福山市民病院や倉敷・岡山の病院にも近いことが上げられる。さらに埋め立て地でなく丘を切り開いたところなので，地盤も良い。
跡地利用	・ 現病院跡地の利用については，住宅街として開発し，人口増につなげるのが良いと思う。
通院手段の確保	・ 「市内の診療所数も減少傾向」としているが，今後，「無医地区」が増えていくのではないかと。それへの対応はどう議論がされたのか。その受け皿として新病院があるかと考えるが，通院のための手段の確保（例えば，巡回バス，タクシーチケットの利用緩和，船賃補助など）を検討する必要があるのではないかと。
医師の確保	・ 笠岡地域で医師数が不足は，個別自治体の努力だけでなく，県にもはたらきかけて医師不足を解消しなければならないと思うが，その努力はしたか。また，市民運動として医師の確保を働きかけることも視野に入れるべきではないかと。
	・ 現在の国の方針をみていると，地方における将来的な医師の確保は難しいと考える。よって，原基本構想では医師不足となり病院の経営は成り立たないかと考える。
	・ 医師不足の解消のため，市民の求める医師を市民病院に派遣するよう，国・県・大学などに市民ぐるみ（例えば，全市民署名の要請書をつくるとか）の取り組みを進め，市民に「市民病院は必要だ，もっと良い病院を市民の声でつくろう」との意識を強く持ってもらう取り組みを行ったらどうか。

区 分	コメント
機能・役割	<p>・ 検診や健診に特化し、回復期、慢性期、終末期の地域包括ケア病床的療養型の病院を目指すべきである。 また、感染症の隔離施設の機能も有するべきである。つまり、家庭内では療養できない人を受け入れることができる全てのケア病床を目指すべきである。</p> <p><病院機能の構想案></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一般診療所&人間ドック検診センター&病床 市民病院内に診療所的な部屋を多数設ける。そして市内の個人診療所からの患者を受け入れたり、一般病床として個人診療所では入院できない患者を入院させる。入院した患者は、個人診療所の医師と共同で診療を行う。このシステムを採用することで、診療科や医師が確保できる。 2 回復期・リハビリ病床 3 慢性期・急性期より戻された長期入院 4 終末期ケア見取り病床 5 感染症対応対応の隔離病床 6 災害時の緊急対応機能 などを有する病院。 <p>・ 原案では「高齢化」との関係が強調されているが、市の若者を増やそうという政策の中で、子育て世代の病院への要求(例えば、周産期医療、小児科)を具体化できる診療科や施設も十分に検討する必要があると思うがどのような検討がされたのか。</p> <p>・ 「医師の確保の見通しが立たないため、産婦人科の継続は困難」としているがそれでよいのか。笠岡市内に産科が1病院だけで、「安心して子どもを産み、育てられる」笠岡市になるのか。また、健康診断等の事業するうえでも婦人科は維持しておくべきではないか。</p> <p>・ 小児科については、市民病院の「うり」にしていく必要がある。そのための診療体制と設備の充実は欠かせない。例えば、個室とか専用病室とかを整備する必要があるのではないか。</p> <p>・ 災害時医療に備えるためには、どの程度の病床確保が必要なのか。万一の事態に備えて多額の出費はできないにしても、余裕のある病床数、人員体制、設備の病院にしていきたい。</p> <p>・ 救急の受け入れのためには、どの程度のコストがかかるのか。市内での救急受け入れは、是非とも確保してもらいたい。</p> <p>・ 市西部の市民からは、是非、市民病院でも透析の外来が受けられるようにしてほしいとの要望を聞く。新病院では、是非、透析外来を実現してほしい。</p>
設備	<p>・ 将来の人手不足等を考え最新の技術を投入しシステム化を図るべきである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 最新の検査機器の導入 2 各種ロボットの導入（検査実施や空気洗浄など） 3 高速の通信設備を導入しオンライン化を進める（島しょ部や奥地へのサービス強化） 4 オンライン遠隔操作による診察や治療、画像診断機能の導入 5 AIによる画像診断などの機能の導入 6 カルテ管理、会計処理、薬剤などの連動システム化を図り、短時間での会計支払い、薬の受け取りができるようにする。 7 将来の5Gや6Gの携帯電話やパソコンなどのモバイル機器と連動でき活用できるシステムの導入で家庭からの受診等の実施。 8 感染症対策としての設備を持った隔離病棟機能 9 空気の洗浄、使用した部屋の洗浄、廊下などの洗浄ができる機能やロボットの導入 10 災害時の対応（自家発電機能、耐震、ヘリポート、衛星電話）
院内施設	<p>・ 病院は治療だけでなく「行って心が安らぐ安心するムードづくり」が必要。そのためには、明るい色調にまとめ、本屋や喫茶店などを整備することで病院へ行きたくなくなると思う。</p> <p>・ 一般受診の市民が憩えるようなコーナーも設ける。喫茶、食堂、談話コーナー。美容院やコンビニなども併設してもよいと思う。</p>

区 分	コメント
病床数	・病床数は、現状の状態では削減と決めてしまうと、将来、増床が大変厳しくなるのではないかと。
	・長期入院患者も受け入れる為には空室となっても病室数は確保して準備しておくべきである。
	・医療を取り巻く状況は、自治体病院に限らず私立の病院や診療施設においても同様であろうと考えるが、市内の民間病院が同じように生き残りをかけて「ダウンサイジング」を始めたなら地域医療はどうなるのか。全体として病床数が不足するということはないのだろうか、その点についてはどのような検討がなされたのか。
	・病床数を一度削減すると、新たに増やすのは困難と聞いた。病床の削減は、慎重に検討していただきたい。
経営状況	・累積欠損の処理はどうするのか。直営の場合、問題は少ないと思うが、運営形態によっては大きなネックになるのではないかと。その考え方を示していただきたい。
	・市民病院の経営状況について、市民にもっとわかりやすく説明すべきである。
経営改善	・建替までの収支改善方針と具体的な取り組みを、病院全体で策定して取り組んではどうか。
運営形態	・笠岡市立として笠岡市が責任を持ち運営すべきである。
	・市民の意見がとおる直営にしてもらいたい。また、そのスタッフは正規の医療従事者を配置すべきである。
市民との意見交換・合意形成	・自治体病院が不採算な分野も含めて、地域医療を担わざるをえない以上「黒字化」は困難な課題だと思われる。そういった状況から、市民の合意、覚悟が必要ではないか。
	・市民の声を聴く100人委員会がもたれたが、これを1回きりにせず、折に触れて「100人委員会」など市民の声を聴く、市民対話の中で建設事業を進めていただきたい。
	・100人会議のアンケート結果からは、建替しても利用するかどうかは別とも取れるため、1度で終わりとせず、中間報告も含めて100人会議を何度か実施してはどうか。
	・市民との対話を進めるために、100人市民会議のような取り組みを行い、研究・検討の場をつくって欲しい。
	・建替の財源・建設費は、病床数や診療科目等が大きく影響すると思われることから、市民に対ししっかりと説明を行うとともに、市民の提案に対し検討する時間をつくることを考えてはどうか。